

環境負荷の 小さい物流体系の 構築を目指す 実証実験補助制度

地球温暖化対策として
CO2排出量の削減が急務です。

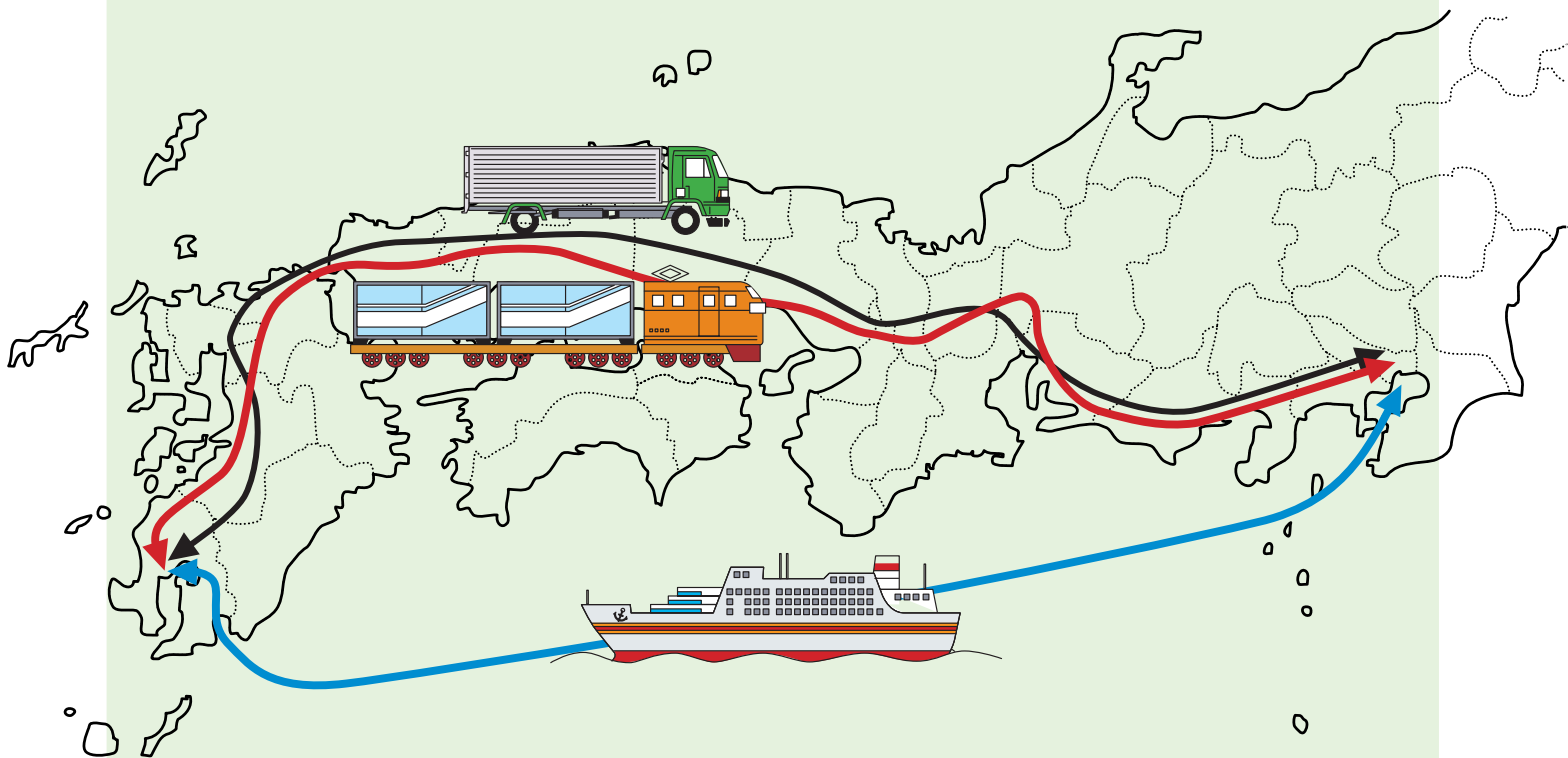
我が国は2010年までにCO2排出量を1990年に比べて6%削減することを国際的に約束していますが、その目標達成に向けては、官民を問わず各主体が総力を挙げて取り組むことが不可欠となっています。

環境保全意識の高い多くの企業では、環境対策を企業の社会的責任(CSR)と位置付けて、商品の生産から廃棄にいたる全ての場面で環境負荷の削減に取り組まれています。その中で、物流における環境負荷低減策としては、輸送方法を海運・鉄道利用に転換するモーダルシフトや、大型化・共同化等によるトラック輸送の効率化が効果的です。しかし、輸送方法の転換は一朝一夕に実現するものではなく、輸送システムや生産計画の大きな変更を伴う場合があるなど、荷主企業と物流事業者が連携・共同して取り組まなければならない事業です。

本制度は、物流の環境対策として事業者が独自に実施する実証実験を支援する制度として荷主企業・物流事業者の皆様にご利用いただいているものです。平成15年度末時点では42件の実証実験が全国で実施されております。今年度も、より多くの企業の皆様が本制度をご利用になり、CO2排出削減効果を実証していただくことにより、環境負荷低減に向けた流れが社会全体で加速していくことを期待しております。

モーダルシフト

トラック → 海運
トラック → 鉄道



トラック輸送の効率化

大型化
共同化
輸送距離の短縮

新技術の活用

スーパーエコシップ
スーパーレールカーゴ
大型低公害車